

## [ 年度 ] 平成 2 0 年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[ 成果情報名 ] カキノヘタムシガの発生活長と各種 BT 水和剤による防除効果

[ 要約 ] カキノヘタムシガ雄成虫の発生活長から判断すると、防除適期は6月上旬および8月上旬である。また、有機栽培で使用できる BT 水和剤の内、バシレックス水和剤の防除効果はやや不安定だが、他剤はオルトラン水和剤とほぼ同等の防除効果が認められる。

[ キーワード ] カキ、有機栽培、カキノヘタムシガ、発生活長、BT 水和剤、防除効果

[ 担当機関名 ] 果樹試験場かき・もも研究所 [ 連絡先 ] 0736-73-2274

[ 部会名 ] 果樹 [ 分類 ] 指導

[ 背景・ねらい ]

近年、カキの放任園が増加し、その近隣園でカキノヘタムシガの被害が増加傾向にある。紀北地域を中心に取り組みが盛んな有機栽培においては、使用できる殺虫剤は BT 水和剤に限定されるために、カキノヘタムシガの発生は重要な問題となる。

そこで、近年カキノヘタムシガの性フェロモンが合成されたことから、発生活長調査により防除適期を把握すると共に、各種 BT 水和剤の防除効果を確認し、有機栽培におけるカキノヘタムシガ防除技術を確立する。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1 . 性フェロモントラップによるカキノヘタムシガ雄成虫の誘殺は5月中旬～6月中旬および7月中旬～8月中旬に見られ、そのピークは5月5半旬および7月下旬に見られる(図1)。
- 2 . 成虫誘殺ピークの約1週間後が防除適期なので、本県における防除適期は6月上旬および8月上旬である。
- 3 . カキノヘタムシガの雄成虫誘殺ピークとその1週間後の2回散布では、各種 BT 水和剤の内、バシレックス水和剤は試験によってはオルトラン水和剤に比べてやや劣る防除効果が認められるが、他剤はいずれもオルトラン水和剤とほぼ同等の防除効果が認められる(表1)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1 . 今回試験に用いた BT 水和剤の中でカキノヘタムシガに登録があるのはバシレックス水和剤のみである。
- 2 . 今回試験に用いたバシレックス水和剤以外の各種 BT 水和剤は、果樹類においてハマキムシ類やケムシ類に登録があるので、カキノヘタムシガの防除適期にハマキムシ類やマイマイガ等の幼虫が発生した時に使用する。

